津波避難ビル標識についての考え方　110826_picto 研メモ

110831

ADD Alliance for Disaster reduction Designs

原案をうけて

（案）

記名サインのみならず、市民に向けた Notification を意識し、機能するものとしたほうがよい。

●ビルの名称は必要ない→災害時の情報のやりとりのためビル番号を付与する

●記名サインのみならず、市民に向けた Notification を意識し、機能するものとしたほうがよい。

●標識を付ける場所、何をつたえるのかが大変重要である。

→ ビル上部／地上入り口付近／まちなか
→ 具体的行動に結びつくようなメッセージを持つ Notification サインを設置する。
→ Notification サインは地域の「結節点」を考慮し、「面的」に配置する。

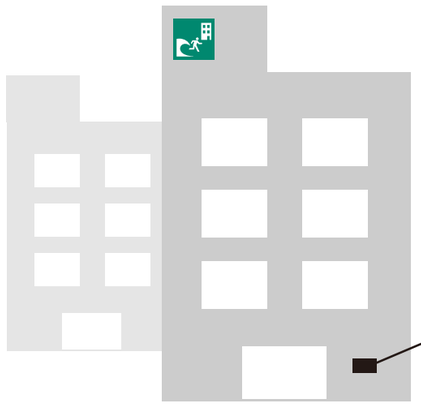
Notification：日常学習

いざという時の迅速な行動のため、事前に地域の危険・想定される被害・避難などを住民に知らせる日常的な学習。津波避難の基本的な理解のための情報提供

ビル自体には上部に目標物として、「図記号のみ」を設置する。地上に近いものは「文字情報」を入れる。

地域には、面的に行動に結びつくようなメッセージを持つ notification サインを設置する。　このセットで展開するのがよい。

●ビル上部
図記号のみ



●ビル（地上付近）
図記号／津波避難ビル（日英／中韓）／避難ビル番号

番号をつける。これは救助の際のコミュニケーションとして
ビルの名称よりも●●市内の津波避難ビルがよい
大阪市　O - 001、岸和田市　K - 001　など

●地域（結節点）
図記号／津波避難ビル（日英／中韓）／避難ビル番号／分布図など

面的に配置する／分布図などをセットで掲載する
具体的行動に結びつくようなメッセージを持つ notification を意識したもの
にげるきっかけとして、「強いゆれを感じたら」「ゆれ１分」など